

# 山村留学に関する調査・研究Ⅱ

— 佐賀県の実態を中心にして —

牛 島 達 郎

## はじめに

教育の在り方は、その時代に生きる子ども達や社会状況などをふまえて常に変化するものである。近年における犯罪の低年齢化や学級崩壊、引きこもりなどは、教育現場がかかえる大きな教育問題となっている。なぜこのような問題傾向が増加してきたのだろうか。

その理由の一つとして考えられるのが、家庭、社会、学校などの日常生活における間接体験（主として電子機器による体験）の増加とそれに伴う直接体験（自然体験や集団体験など）の極端な減少であろう。

例えば、急速な普及を遂げたパソコン、テレビゲーム、携帯電話などの電子機器がその代表である。これにより子ども達は人間や自然と直接向きあうことなく、コミュニケーションがとれたり、また様々な疑似体験をすることができるようになった。

都会の多くの子ども達はカブト虫は採るものでなく買うものになっている。私達の子どもの頃は、カブト虫を手に入れる過程で様々な出来事に出会い、自然の体験をしたものである。これが人間が生きていく上での生活の知恵として貴重な体験であった。

私は昨年本紀要に山村留学に関する福岡県の実態を調査、研究し発表した。福岡県山村留学実施校（3校）の研究をすすめる中で、全国的にはどのよう

な状況になっているであろうかという問題点を感じた。そこで今年度は、まず全国的な傾向を把握すると共に、隣県である佐賀県の実態を分析し、明らかにするために学校を訪問し、里親宅に宿泊して調査・研究をすすめることにした。特に教師については聞き取り調査を行い、里親、実親については聞き取りの外に調査用紙による方法もとり入れ、研究をすすめることにした。

## 第一章 調査研究の手続き

### 1 調査対象

- ① 全国の山村留学実施小学校
- ② 佐賀県佐賀郡富士町立北山東部小学校

### 2 調査方法

- ① 全国の山村留学実施校を把握するために、各県教育委員会に照会し実施校を特定した。その後全国の実施校に調査用紙（別紙）を郵送し回収する方法で行った。（回収率87.0%）
- ② 佐賀県富士町立北山東部小学校における山村留学実施の実態については、小学校及び里親宅に3回にわけて滞在し、実際に生活を共にする中で教師、児童、里親などから直接の聞き取りや実親に対するアンケート（別紙）により、意見を収集した。

### 3 調査年月 2000年3月～2001年10月

### 4 調査の主な内容

- ① 全国の山村留学実施校について
  - ・ 各学校における全校児童数と留学生の人数
  - ・ 山村留学実施の動機
  - ・ 山村留学に対する保護者、地域の取り組み方
  - ・ 実施上の問題
  - ・ 山村留学によって得られた効果
  - ・ 今後の見通しなど（詳細別紙）

## ② 富士町立北山東部小学校について

里親に対して

- ・ 留学生の最初の様子
- ・ 留学生を引き受けてのトラブル
- ・ 留学生の変化（成長）
- ・ 留学生を受け入れて得たもの など

実親に対して

- ・ 山村留学をどうして知ったか
- ・ 子どもを山村留学に出した理由
- ・ 子どもの変化（成長）
- ・ 学校、地域 里親などに望むこと。など（詳細別紙）

## 第二章 全国の山村留学の実施状況（2000年度の実態）

## 1 山村留学を実施している県

	県数	%
実施している県	22	47
実施していない県	25	53
計	47	100

およそ半数の都道県で山村留学制度が何らかの形で実施されていることがわかる。特に長野県、北海道、鹿児島県においては、多くの学校で実施されていることが明らかになった。

## 2 開始年度

年 度	学校数	%
昭和 57年以前	1	1.2
〃 58年～63年	13	15.1
平成元年～5年	22	25.6
〃 6年～10年	43	50.0
〃 11年以降	7	8.1
計	86	100

山村留学は昭和51年に長野県八坂村において開始されている。この制度を  
発案した青木孝安氏は「山村留学ガイド」の中で次のように述べている。

「山村留学は昭和51年にスタートしました。私の長野県八坂村を活動の拠点  
として行った短期自然活動に併せて長期の活動を取り入れたことに端を發し  
ます」<sup>(注1)</sup>と述べている。

複式学級の解消を望む過疎の学校と自然体験などを望む都会の人々が年々  
増加するにつれて山村留学という制度が平成元年頃から多くなり、第14期中  
央教育審議会答申がなされた平成3年頃から急に増加していった。

## 3 滞在方法

	学校数	%
里 親 方 式	41	47.7
セ ン タ ー 方 式	8	9.3
里親とセンターの併用	11	12.8
家 族 転 居	24	27.9
そ の 他	2	2.3
計	86	100.0

山村留学を実施する上での大きな課題は、滞在方法である。現時点では里  
親方式が約半数をしめている。しかし里親確保に各学校とも苦慮しており、  
今後センター方式との併用が検討されるであろう。また北海道においては家

族転居の形が多くとられ、他県では見られない特色である。

#### 4 山村留学導入の理由（二項目選択）

	学校数	%
複 式 解 消	40	23.3
都会の子どもの山村体験	13	7.5
地 域 の 活 性 化	69	40.1
都会の子どもとの交流	32	18.6
そ の 他	18	10.5
計	172	100

複数回答で行ったが、少子化にともなう地域の活性化と複式学級の解消を目的として開始されたことがよくわかる。長野県の小学校からの回答中に「地元の子ども達は生まれた時から一緒に、集団が序列化し、考え方が狭くなりがちである。そこで全く新しい子どもが加わることで新鮮な体験をし、良い意味で競争意識が芽ばえるのはありがたい」という意見が書き添えてあったのは印象的であった。

このようなことから見ると最初は「地域の活性化」や「複式学級の解消」という考え方で出発したと思われるが、実際に実践していくうちに多様な意見がみられるようになったと考えるのが妥当ではないかと思う。

#### 5 保護者、地域の取り組み方

取 り 組 む の 姿 勢	学校数	%
積 極 的	40	46.5
やゝ 積 極 的	33	38.4
やゝ 消 極 的	10	11.6
消 極 的	3	3.5
計	86	100.0

山村留学を開始する段階で学校が主体となったか、地域が主体となったか

によって多少の違いはあるが、積極的、やゝ積極的という評価が84.9%であるということは、保護者、地域の支えはかなり高いと言える。しかし根底に里親の確保に苦勞している様子がよくわかる次のような添え書きがあったことを付加したい。「山村留学を開始する時に地域も学校も非常に盛り上り、熱意をもって出発したが、時代が経過するにつれて、当時の熱気が少しずつ消えているのが現状です。10年前の熱意が感じられません。時代の流れはこわいです。」というものである。

## 6 山村留学実施上の問題点（二項目選択）

問題点	学校数	%
留学生の受け入れ先	52	30.2
町、村からの補助金	19	11.0
留学生の確保	43	25.0
留学生の問題行動	17	10.0
受け入れに対する考え方の違い	26	15.1
その他	15	8.7
計	172	100

先述したように留学生の受け入れ先の確保が大きな問題点と言える。特に里親方式の場合は、里親の老令化と共に確保がむつかしくなっているようである。また回答の中に留学生の減少にともなって「山村留学を実施したいが留学生が来なかった為にお答えできません」という添え書きをして、返送された学校が10校程あった。山村留学のPR方法に一考を要すると思わざるを得ない。

## 7 山村留学によって得られた効果（二項目選択）

得られた効果	学校数	%
複式学級の解消	18	10.4
活力ある地域づくり	19	15.1
地元児童の活性化	67	39.0
留学生の自然体験	56	32.6
その他	5	2.9
計	172	100.0

山村留学制度導入で述べたように複式学級解消を目的の一つに掲げた学校が、23.3%であったが、結果として複式学級の解消にはつながらなかった為に、この面での評価は高くない。一方、地元児童の活性化や、留学生の自然体験では高い評価を得ていると言える。

## 8 今後の見通し

見通し	学校数	%
ぜひ続けたい	44	51.2
続けたいが問題点あり	38	44.1
中止したい	1	1.2
まだわからぬ	1	1.2
その他	2	2.3
計	86	100.0

「続けたい」という意志表示が実に95.3%の高率にあることは、多くの困難や問題点を感じつつも、山村留学制度の効果を強く認めているからであろう。実施校が継続の意志を持っているということは、山村留学制度が留学生とその実親のみに良い効果をもたらすのみでなく、そこに生活する人々にも様々な形で効果をもたらすからであろう。このように今回全国的な傾向が把握できたのは有意義であった。

### 第三章 佐賀県富士町立北山東部小学校における山村留学制度の実施について

山村留学についての全国的な傾向については前述の通りであるが、あくまでも概観であり、統計的なものである。それぞれの山村留学の現場においては、それぞれ固有の課題をもち実施されていることがよくわかる。そこで今回は昨年の福岡県に続いて佐賀県の実態を明らかにしたい。

佐賀県においては北山東部小学校一校が山村留学制度を導入している。

高速道路（長崎線）佐賀大和インターを降り、川上温泉峠を抜け、川沿いに国道263号線を上っていくと山また山という曲りくねった山道の途中に北山湖がある。この北山湖からほぼ近いところに北山東部小学校がある。

（地図参照）

#### 1 小学校の立地条件

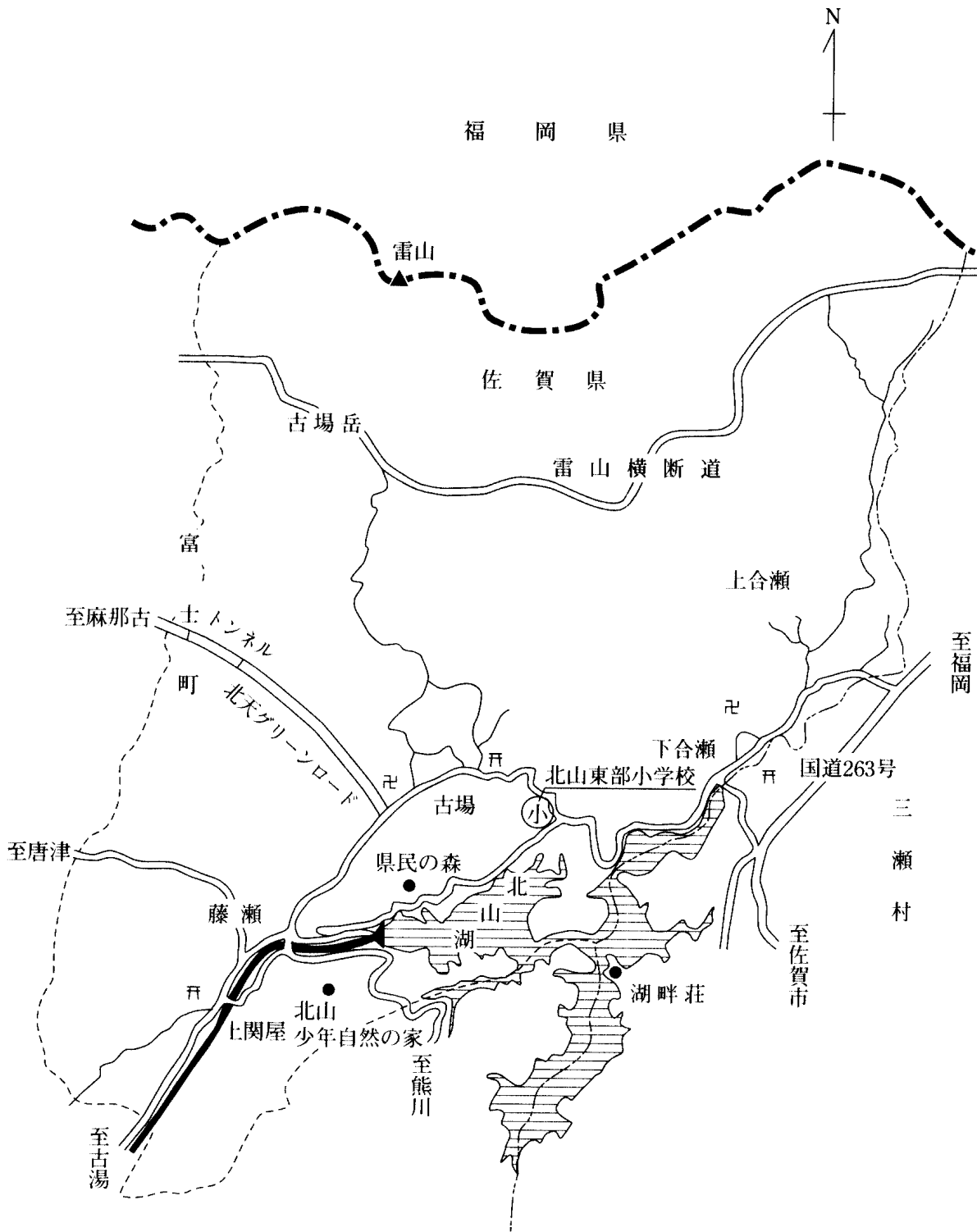
- (1) 当地は佐賀県佐賀郡の北端に位置する富士町の北東にあつて、福岡県との県境に接する山間部である。気候は山地（標高410m）の特徴をそなえ、夏は涼しいが、冬は寒さが厳しく、積雪や道路凍結のため車両の通行が困難になることは再々である。
- (2) 豊かな自然に恵まれ、北に雷山、井原山を望み、眼下に北山湖を有している。この北山湖を中心に佐賀県民の森が広がり、この環境を生かして、県立少年自然の家などの社会教育施設が設置され、休日には県内外から自然散策や釣などを楽しむ場ともなっている。

#### 2 産業、経済の特色

農業が主体であるが兼業農家も約40%程度存在する。米作よりも山間部の特色を生かし、ハウレン草、小ネギ、パセリ、セロリー、レタス等が中心であるが、最近ではチューリップ、洋欄などの花の栽培も定着し、複合的な経営で経済的には、かなり恵まれている。



【 校区略図 】



### 3 教育、文化的特色

素朴、人情豊かで、勤勉誠実であり、学校には非常に好意的、協力的であ

る。特に公民館を中心とする社会教育活動においては、地域の祭などを中心に共同体としてのまとまりがある。

また児童のいる家庭はほとんどが三世代同居家族で留守家庭はない。学校への支援、学校行事への参加は児童の有無にかかわらず協力的である。

#### 4 校区内の世帯数

小学校区内には上合瀬，下合瀬，古湯，藤瀬，上関屋の五つの集落があり，全世帯数は143世帯であるが，そのうち児童のいる世帯数は15世帯である。

#### 5 児童数の推移

北山東部小学校は今年で開校100周年を迎えるが，昭和32年からの児童数の推移は次の通りである。

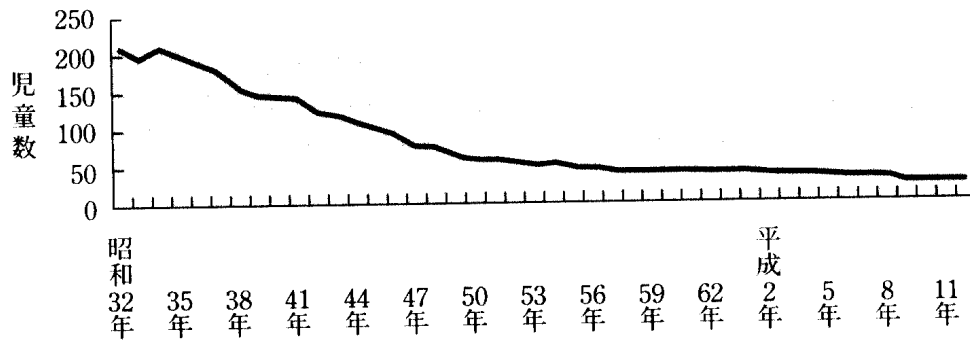
年 度	児 童 数	年 度	児 童 数	年 度	児 童 数
昭和 32	207	昭和 47	79	昭和 62	41
33	196	48	76	63	44
34	207	49	65	平成 1	42
35	199	50	59	2	39
36	186	51	60	3	38
37	177	52	56	4	37
38	156	53	52	5	35
39	146	54	54	6	33
40	144	55	48	7	35(4)
41	141	56	48	8	34(7)
42	124	57	43	9	26(3)
43	119	58	43	10	28(5)
44	110	59	42	11	26(5)
45	101	60	42	12	28(6)
46	93	61	42		

( ) は山村留学生

この表からもわかるように，児童数は，減少の一途をたどり，昭和46年に

## 山村留学に関する調査・研究Ⅱ（牛島）

北山東部小学校児童数の推移



は二桁台になり、平成12年度においては留学生6名を含めても28人である。

北山東部小学校が山村留学を実施するに至った背景には児童数の減少による隣町の小学校との統合問題がある。山村留学を実施してもなお児童数の減少に歯止めをかけることはできないが、地域の学校を残したいという熱意が強く、学校というのが単なる義務に従って子どもを通わせ、教育を受けさせる場所ではないということを痛感した。ここでは地域の中心として学校があり、学校の中心に地域があるという感じが強い。学校の活力は地域の活力といえる。この熱意が統合という行政の考え方に一定の歯止めになっていることを実感させられる。人数的には統合される条件であるが、地元の熱意が統合を阻止していると考えられる。

### 6 平成12年度児童数，及び留学生の内訳

学 年	児 童 数		
	男	女	計
1	2	3	5
2	0	3	3
3	4( 1)	2	6( 1)
4	5( 3)	1	6( 3)
5	3( 1)	1( 1)	4( 2)
6	2	2	4
計	16( 5)	12( 1)	28( 6)

( ) は山村留学生

## 7 児童の通学状況

交通機関	距離	0 km～ 2 km未満	2 km～ 4 km未満	計
	徒歩		9人	19人

## 8 北山東部小学校に山村留学制度を導入した理由

前述のように北山東部小学校の現実問題として隣の北山小学校との統合という問題が10年来検討され、児童数も減少の一途をたどっていた。

複式学級の解消と北山小学校との統合の阻止を目的として、平成6年から山村留学制度が開始されたが、実施するにあたっては「やまばと山村留学実行委員会」が組織されている。平成12年度の山村留学説明会の資料には、次の三点を目的として掲載している<sup>(注2)</sup>。

- ① 山村留学発足の動機は、北山東部小学校が小人数であるため、複式学級解消のため、都市部より山村留学児童を受け入れることによって学校の児童数を増やすことを目的として発足させた。

しかし現在では、山村留学制度を通して、留学生を受け入れ、北山東部小学校保護者、教職員及び地域住民全体では山村留学行事を運営することで、北山東部小学校のよりいっそうの団結と地域の活性化を図ることを目的としている。

- ② 北山東部小学校においては、小人数で保育園からほぼ同じメンバーで過ごしてきている児童に、毎年留学生を受け入れることにより、児童相互のマンネリ化した関係に刺激を与え、変化をもたらすことで、学校全体の活性化を目的としている。
- ③ 留学生においては、北山東部小学校区の豊かな自然と「地域が子ども達を育てる」という北山東部小学校区民の意識の中で、たくましい体と思いやりのある優しい心を育てることを目的としている。留学生の保護者および家族においては、留学生の里親宅や北山東部小学校区とかかわりをもつことにより、北山東部小学校区の魅力にふれていた

## 山村留学に関する調査・研究Ⅱ（牛島）

だき、留学生が留学期間を終えた後までも、北山東部小学校区とのふれあいをもち続けていただくことを目的としている。

### 9 山村留学の形態

校区内の北山東部小学校保護者宅で、一年間留学生を預かり、里親宅から北山東部小学校に通学する。

今年は例外的に児童がいない1世帯が里親を引き受け、合計6世帯が里親となり、留学生を預かっている。

### 10 山村留学の期間及び受け入れ人数

原則として1年間（4月から翌年3月まで）但し留学生及び保護者が希望する場合は、延長することも可能

受け入れ学年については、2年生から6年までとし、人数は若干名。

### 11 山村留学の経費

- (1) 月額負担金 毎月40000円  
（里親宅での生活費，学校給食費）
- (2) 年額負担金，毎月60000円  
（傷害保険，実行委員会運営経費）
- (3) その他費用，実費  
（医療費，教材費，学用品費など）

## 12 留学生や地域を交えた年間行事<sup>(注3)</sup>

### 平成11年度 山村留学生を中心とした年間行事計画

富士町立北山東部小学校

月	山村留学生に関係する学校行事及び体験的活動等	内 訳			育友会関係行事	山村留学会・実行委員会関係行事
		学校が中心となって運営する学校行事等	実行委員会が中心となって運営する行事	部落行事・町行事及び対外的行事		
4	上 ◎山村留学生歓迎会 (4/4) ・始業式 (4/6) ・入学式 (4/9)	始業式 入学式	山村留学生歓迎会		育友会役員会	実行委員会役員会
	中					
	下 ・春の遠足(雷山登山) (4/28) ・家庭訪問 (4/30・5/6)	春の遠足 家庭訪問		佐賀県植樹祭・緑の少年団交流会		
5	上 ・授業参観 (5/1) ・弁財天まつり ・たけのこほり(全校クラブ活動) (5/7)	授業参観 たけのこほり		弁財天まつり	授業参観 育友会総会 育友会歓迎会	山ばと山村留学会総会  九州地区山村留学連絡協議会
	中 ・祖父母とのふれあい学級 (5/15)	祖父母とのふれあい学級				
	下 ・全校田植え(全校クラブ活動) (5/25) ・富士町すもう大会 (5/29)	田植え		富士町すもう大会 育友会除草作業・いも苗床づくり		
6	上 ・学校周辺の空きカン拾い (6/5) ・北山湖で魚つり大会 (6/5) ・いも苗植え(全校クラブ活動) (6/9)	学校周辺の空きカン拾い いも苗植え	北山湖でつり大会		授業参観 救急措置法講習会	実行委員会役員会
	中 ・花苗植え(全校クラブ活動) (6/16) ・ホテル鑑賞会		ホテル鑑賞会			
	下 ・授業参観 (6/25) ・ふれあい給食 (6/25)	授業参観 ふれあい給食				
7	上 ・富士町剣道大会 (7/4) ・川遊び(全校クラブ活動) ・水泳指導(北山中プール) (7/14・15)	川遊び 水泳指導		富士町剣道大会	育友会役員会 学級育友会(懇談会)	実行委員会全体会 実行委員会役員会 短期留学広報活動
	中 ◎授業参観 (7/17) ◎学級育友会(懇談会) (7/17) ・終業式 (7/19)	授業参観 学級育友会(懇談会) 終業式				
	下 ◎教育キャンプ (7/22~23) ・海水浴 ・北部尚武会剣道大会 (7/31)	教育キャンプ		海水浴 北部尚武会剣道大会		

※◎は学校から実親さんへ案内状を発送する行事

山村留学に関する調査・研究Ⅱ（牛島）

月	山村留学生に関する学校行事及び体験的活動等	内 訳			育友会関係行事	山村留学会・実行委員会関係行事	
		学校が中心となって運営する学校行事等	実行委員会が中心となって運営する行事	部落行事・町行事及び対外的行事			
8	上 ◎九州地区山村留学交流会参加 （前津江村赤石）（7/31～8/1） ・八朔まつり（合瀬） ・町子どもクラブソフトボール大会 （8/8）		九州地区山村留学交流会参加	八朔まつり	育友会役員会	九州地区山村留学交流会参加  実行委員会全体会	
	中 ・三瀬村戦没者慰霊剣道大会 （8/16） ・観音さんまつり（上合瀬）（8/17） ・九福さんまつり（上合瀬）（8/18）			子どもクラブソフトボール大会  三瀬村戦没者慰霊剣道大会 観音さんまつり 九福さんまつり			
	下 ・短期留学（8/18～21） ◎やまばと山村留学交流会（8/21） ◎除草作業（8/21）	除草作業	短期留学 やまばと山村留学交流会				
9	上 ・始業式（9/1） ◎秋の大運動会（9/19）	始業式 秋の大運動会			育友会役員会	実行委員会役員会	
	中						
	下 ・いねかり（9/21）	いねかり					
10	上 ・秋の遠足（1年～5年）（10/7） ・修学旅行（6年）（10/7～8）	秋の遠足 修学旅行			育友会役員会	除草作業	
	中 ・栗ひろい（全校クラブ活動） （10/12） ◎授業参観・親子ふれあい活動 （10/16）	栗ひろい 授業参観・親子ふれあい活動					授業参観 親子ふれあい活動
	下						
11	上 ・いもほり（全校クラブ活動） （11/2） ◎ふるさと文化祭（11/6）	いもほり ふるさと文化祭			育友会役員会  育友会研修視察	実行委員会役員会	
	中 ・焼きいも大会（全校クラブ活動） （11/9） ・子どもクラブキックベースボール大会 （11/14） ・三瀬村剣道大会	焼きいも大会		キックベースボール大会 三瀬村剣道大会			
	下 ・社会科見学（11/22） ◎育友会研修視察（11/27） ・富士町上依まつり	社会科見学					

※◎は学校から実親さんへ案内状を発送する行事

月	山村留学生に関係する学校行事及び体験的活動等	内 訳			育友会関係行事	山村留学育成会・実行委員会関係行事
		学校が中心となって運営する学校行事等	実行委員会が中心となって運営する行事	部落行事・町行事及び対外的行事		
12	上 ・富士町少年剣道大会 (12/11)			富士町少年剣道大会	学級育友会 (懇談会)	実行委員会役員会 実行委員会全体会
	中 ・門松づくり ◎もちつき大会・学級育友会 (懇談会) (12/18)	門松づくり もちつき大会 学級育友会 (懇談会)				
	下 ・なごみ荘誕生会訪問 (12/22) ・終業式 (12/24)	なごみ荘誕生会訪問 終業式				
1	上 ◎鬼火小屋作り (1/8) ・始業式 (1/11) ・もぐらうち	始業式 鬼火小屋作り	もぐらうち		授業参観	山村留学募集開始  報道機関まわり 実行委員会役員会
	中 鬼火小屋利用 ◎授業参観・鬼火たき (1/23)	鬼火小屋利用 授業参観 鬼火たき				
	下					
2	上 ・スキー体験		スキー体験		6年保護者会	里親募集開始 山村留学説明会 実行委員会全体会 留学希望者申し込み締切り
	中					
	下 ◎校内剣道大会 (2/19) ・1日入学 (2/24) ◎中学校進学説明会, 6年保護者会 (2/24)	校内剣道大会 1日入学 中学校進学説明会				
3	上 ・6年生を送る会 (3/3) ・お別れ遠足 (3/5)	6年生を送る会 お別れ遠足			学級育友会 (懇談会) 育友会役員会	留学生・里親決定  契約書交換  実行委員会全体会
	中 ◎卒業式 (3/17) ◎学級育友会(懇談会)(1~5年) (3/18)	卒業式 学級育友会 (懇談会)				
	下 ・修了式 (3/24) ◎山村留学生歓送迎会	修了式	山村留学歓送迎会			

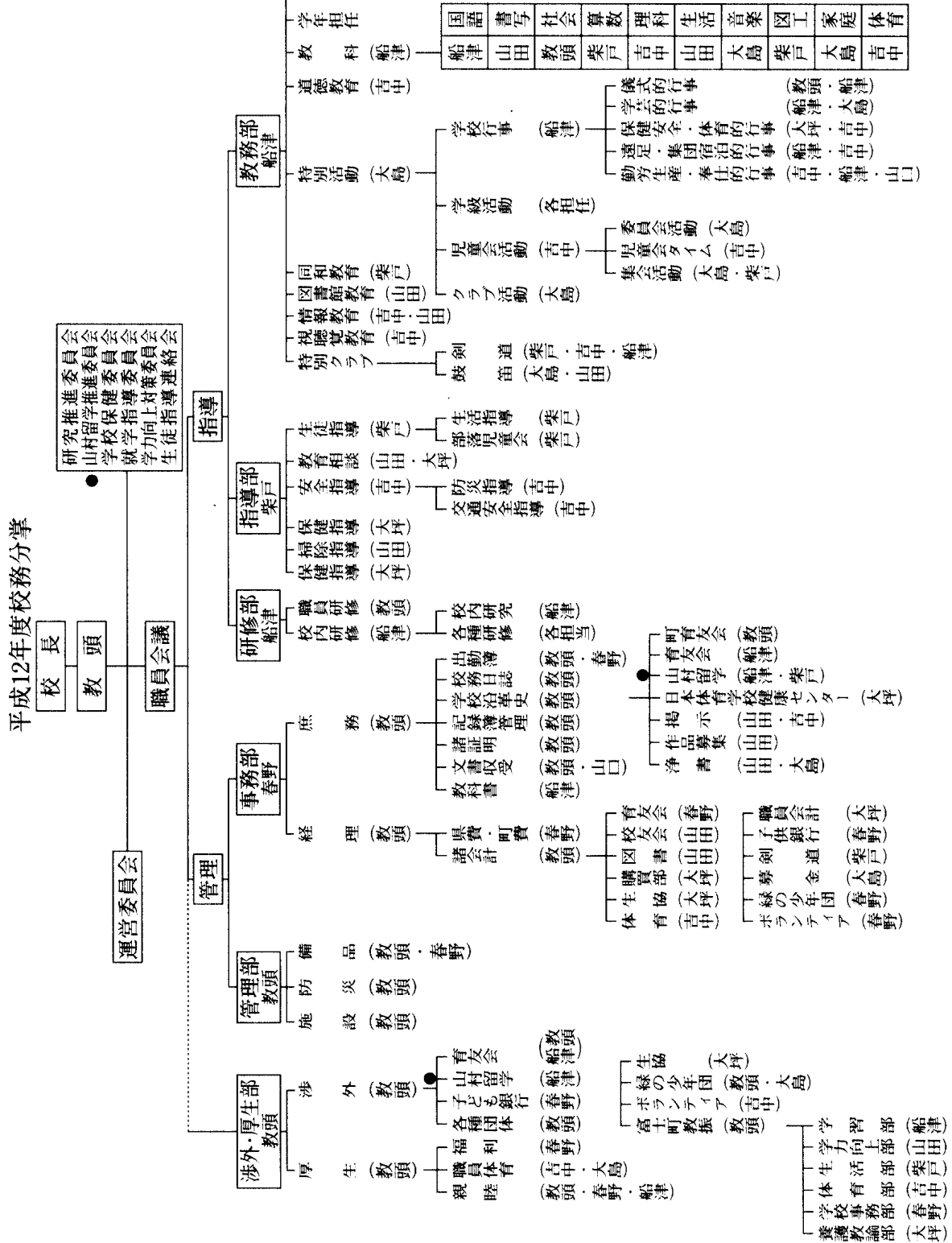
※◎は学校から実親さんへ案内状を発送する行事



13 校務分掌(注4)

(学年担当)

一・二年	三・四年	五・六年
山田	柴戸	大島 吉中



## 第四章 北山東部小学校における山村留学の成果と課題

山村留学については、多くの成果が得られているが、本論では留學生の親（実親）、里親、留學生、留學生を引き受けた学校の教師等の感想、意見を中心にまとめてみたい。

特に留學生の感想文は、できるだけ原文のまま記載し、児童のありのままの感情を理解したい。教師については、面接による聞き取りを中心にまとめてみた。里親、実親については、アンケート用紙を送付し回答してもらう形式をとったが、里親については、さらに直接面接などによる意見聴取も行った。

また在校生については、聞き取りと学校生活を共にする中から感じたことを整理することにした。

### 1. 留學生の親（実親）の意見

6人の留學生の親の調査用紙を送付し自由記述してもらった（全員回収）

ア．北山東部小学校の留学制度を知ったきっかけ。

- ・ 新聞報道（4人）
- ・ 知人の紹介（2人）

イ．何故子どもを山村留学させようと思ったか。（複数項目記入あり）

- ・ この時期にゆったりした自然体験をさせたい。（2人）
- ・ 自然の中で生活することによって心や体を強くしたい。（3人）
- ・ ひとりっ子でわがままなので。（2人）
- ・ 最近子どもの様子がおかしく、友人関係がうまくいっていないので。（1人）
- ・ 環境をかえたかった。（2人）
- ・ 勉強一辺倒である都会の学校に疑問を感じたから。（1人）

ウ．山村留学に出す前と実際に山村留学に出してからの心配な点は何か。  
（複数項目記入あり）

〈山村留学をさせる前〉

- ・ 家族や友人と離れた他人の家で1年間頑張れるか。1年間という期間が少し長すぎるといふ心配。（3人）
- ・ 里親や学校の友人との折り合いがうまくいくかどうかの心配。（4人）
- ・ 気分がむらがあり、感情の起伏が激しいので迷惑をかけないか心配。（1人）
- ・ 本人が強く望んで行ったので、それ程心配はしなかった。（1人）

〈山村留学に出した後〉

- ・ 里親の方々と仲良く、楽しく過ごせているかどうか、迷惑をかけていないかどうか。（5人）
- ・ 学校の友達とうまくやっているかどうか。（4人）

エ．4月から10月までの間に児童に何か変化があったか。

- ・ まだ特別な変化は感じられないが、多くの行事を通して素晴らしい経験をさせてもらっている。一学期は家族とも会わず頑張ったが、夏休み明けに少しホームシックにかかっているようだ。（1人）
- ・ 精神面にはまだ大きな変化は見られないが、肉体的には体がしまり、強くなった。（2人）
- ・ しっかりしてきたなあーと思う。今すぐの変化は期待していない。それよりも子ども自身の体験、忍耐、友人関係など後々の成長に期待したい。（1人）
- ・ たくましくなった。（2人）

オ．留学生の親として学校に望むこと

- ・ とにかくよくやっていただいているので、特に要望することはない。（2人）
- ・ よくやっていただいているので安心しているが、学校の様子（学

校行事を含めて)を知らせてほしい。もっと状況を知りたい。(2人)

- ・ 地域の子どもと同じように、びしびし厳しく指導してほしい。

(1人)

- ・ 里親と一對一の時はいいが、学校行事などの時には、地域の親の方々の中にはいりこめない。(1人)

#### カ. 地域の方々に望むこと

- ・ 留学生を受け入れるにあたり、地域の方々が全体で取り組んでいただき、とても協力的なこと、そしてみなさんの仲の良さに感謝している。特に要望することなし。(2人)

- ・ 感謝することばかり。(3人)

- ・ 感謝の気持でいっぱいであるが、昔からの地域行事が良い形で残り受けつがれているので、実親にもっと呼びかけてほしい。地域の方々の中にこちらから入っていくのは勇気がいるので、意識的に実親を誘ってほしい。(1人)

#### キ. 里親に望むこと

- ・ 留学生を自分の家族と同じように扱っていただくので、とても感謝している。要望することはありません。(5人)

- ・ すばらしいのであと1年預かっていただけませんか。(1人)

#### ク. 行政に対して望むこと

- ・ 山村留学制度はすばらしい制度であるから、ぜひ継続できるよう財政的援助を続けてほしい。(5人)

- ・ もっと補助金を出していただけたら助かる。(1人)

#### <考察>

このアンケートからわかる通り、実親は留学生である自分の子どもに対して、よりよい自然体験の中で、心身の強化を強く願っていることが読みとれる。しかしこのすばらしい自然体験の結果がすぐ現われるとも思っていない。長い目で我が子の成長にプラスになるであろうということを理解し留学に出していることが伺える。

また、山村留学をさせる前に「里親や友人とうまくやれるか」、留学に出た後に「里親や友人とうまくやっているかどうか」という意見が多くあったことは、留学に出す親の心理状態を素直に書いたものであり当然のことであろうと思われる。

一方親同志の関係でみると、実際に実親が地域に入るには、かなりの抵抗があるようである。山村の閉鎖的なところに突然はいり込むのであるから里親対実親という一対一の関係ならまだしも、集団としての村人の輪の中にはいるのはかなりの抵抗があることがわかる。

しかし実親は、里親、地域、学校などすべてに対して非常に感謝の気持ちを抱いていることが文面が読みとれる。

## 2. 留学生の感想

以下記載する感想文は平成11年度の留学生の手記の一部である。

- ・ やはり一年間は長いようで短かったけど、いろいろな思い出ができてよかった。夏はクワガタとり、川遊び、冬は雪がっせん、とてもおもしろかった。ぜひあと1年残りたいと思いました。
- ・ 学校帰りにヘビがカエルをつかまえて、のみこむところを見ました。びっくりして、裕くんに知らせると「そんなこといつもあるよ」と言っておどろきもしなかった。私はびっくりしました。
- ・ まちでやったことのないゆきあそびができてよかったです。みたこともないものがいっぱいあり、すてきな村まつりなどのイベントもありました。また、きのこについても知りました。ここにもだんだんなれてきて、ほうけんもおぼえられてよかったです。
- ・ 一番の思い出に残ったのはスキーです。ぼくはこちらにくるまではスキーはやったことがなかったので、とても楽しみでした。またきかいがあったらぜひスキーをしたいです。
- ・ いちばんの思い出は雷山登山です。雷山は995mの山で1000mちかい山にのぼったのはすごいと思いました。たいへんつかれたけど、ラ

ストスパートして頂上についたときの気持は何とも言えませんでした。べんとうがとてもおいしかったです。

- ・ 山村留学にきての思い出は全部です。多くの友達ができました。すべてのことが楽しかったです。そしてこの1年間で仲良くなった友達といつまでも仲良くしたいです。みんなとてもいい人です。
- ・ 学校の近くにはちょうがいっぱいいます。ちょうは花から花へとんでいきます。ちょうは花のにおいがわかるのかなあーと思いました。近くにいくとすぐとんでにげるので、よく見ることができませんでした。
- ・ 私がここに来たのは2学期からでしたが、みんな優しくしてくれたから、非常にうれしかった。こちらに来ていちばん大変だったのは、朝早くからの剣道練習でした。しかしがんばりました。また楽しかったことは、学校の帰りに、カエルをつかまえたり、クワガタをとったり、川で遊びながら帰ったことです。もう卒業だけど、これから先もときどききたいです。

#### 〈考察〉

このように留学生は多くの体験をし、すばらしい思い出を残している。一年間の感想として書いているので、つらかったことより、楽しかったことが印象として強く残ったのではないかと言えるが、子ども達には自然体験についての思い出が特に強く残っているようである。

自然を求めて、山村留学を希望したのであるが、その期待通り、または期待以上の経験をすることによって、山村留学が自分のものになっていることがよくわかる。

この留学生の手記を読むにつれ、山村留学を十分に楽しんでいる様子が読みとれる。

このすばらしい成果は留学生を迎え入れる地元の児童、里親、地域の方々、学校の教師などの信頼関係が根底にあることは言うまでもない。少なくとも留学生側から見ると山村留学の成果は大であると言える。

### 3. 留学生に対する教師の意見，感想

学校の教職員に対しては一人一人にインタビュー形式で質問することによって意見，感想を聴取した。わずか1～2週間であるが生活を共にする中で、教職員が生き生きと生活している点が非常に印象的であった。また少人数教育の特権か教職員が児童一人一人のことを温かく、時には厳しく見守っていることを体験として実感した。教師の見た留学生に対する感想，意見のいくつかを記載する。

- ・ 前の学校では、授業中も集団の中のひとりというあまり目立たない存在であったが、こちらに来ると少人数のため、学級の中で中心に座り、発言回数も多く、児童一人一人にスポットライトがあたっている。このような授業中の体験を通して、児童が生き生きし、子どもも親も共に感動を憶える。
- ・ 上級生が下級生を指導したり世話することは当然のことということが地元の子どもの実態を見て自然と自分の体で理解する。そのため作業をさせても、さぼったり、しらけたりという児童はいない。全体的に学校一丸となって諸行事を行っていることを体で知る。
- ・ 学校で飼っている魚や昆虫はみんな児童が捕えてきたものである。捕えてきたものであるため、生き物に対する関心が強い。その中から本やテレビで見る知識より体験して生きた知識を身につけていく。地元の子どもは普通と思っていることでも、留学生は強い興味を示す。
- ・ 留学生は最初のうちは、とまどいを感じているが、地元の児童は自然体であるため、うまくいかないこともある。しかし言い争いの中から受け入れ側も留学生を認めようとして、今までの自分をお互いが見直し始める。特に今までの経験の中で下級生のめんどうを見るという習慣がなかった留学生が自然と下級生の面倒を見始め、協調性が生まれてくる。
- ・ 留学生が来たらまず、心理面のケアを考える。留学生は最初、知らない家，地域，学校にはいるわけであるからストレスがたまる。ここ

で大切なことは、学校が独自に行動するのでなく、「やまばと実行委員会」としての対応を考える。このことが非常によく機能し、助かっている。

- ・ 留学生は親に説得されて、つまり親の要望によってやってくる子どもと、自分の強い意志でやってくる子どもがいる。この子ども意識の違いを大切に行動しないと失敗する。
- ・ 留学してきた頃はどんな元気な子どもも自分を出そうとしない、目立とうとしない。どこかで自分を守る壁のようなものを持っている。4月から5月が過ぎると「自分を守る必要がない」と感じるようになり、自分を素直に出すようになる。

#### 〈考察〉

このように留学生が転入してからの指導には実にきめこまかい配慮がなされていることがわかる。多くの教師と面談したが、異口同音に聞いたことがある。それは留学生が持っているマイナスの面である。そのいくつかを述べてみたい。

- ・ 最初留学してきた時には、ほとんどの児童が整理整頓ができない。自分で整理するという習慣がついていない。
- ・ 食べ物の好き嫌が多い、この食生活の偏りは里親を非常に困らせる。
- ・ 協調性に欠ける。しかし北山東部小学校では、このことは許されない、また協力しないと生活できないことを知る。

このような生活の基本的な生活習慣の乱れが目だつ子ども達も時がたつにつれてよくなり3ヶ月もすれば、ほとんどよくなるとのことであった。

このことは、山村留学の持つ特色と言えるであろう。即ち受け入れる児童、里親、学校の教師、地域の人々、地域の環境、自然がそのことを教えてくれるのではないかと思われる。

学校生活の過程において、教師のきめこまかい、しかも暖かいかわりを多く見聞することができた。このことが山村留学生と地元の子どもの心豊かな成長に大きく影響していることを痛感した。



#### 4. 留学生を預かる里親の意見

北山東部小学校においては、毎年小学校区内の家庭の中から「やまばと実行委員会」の委員長が委嘱して、里親を決定している。原則として、小学校に通う児童のいる家庭から委嘱されるのであるが、今年は児童のいない家庭も里親を引きうけている。以下六項目の質問用紙を里親に送付し、記入してもらう方式で調査した。(100%回収)

ア. 留学生を引き受けるにあたって、不安なことや心配なことはあったか。

- ・ 持病（ゼンソク）をもっている児童を預ることになり心配した。（1人）
- ・ 病気やケガをさせないか心配した。（2人）
- ・ 抵抗なく、なじんでくれるか不安だった。（2人）
- ・ 自分の家に小中学生がいないことに対する心配をした。（1人）

イ. 実子の様子はどうであったか。

- ・ 3度目の里親であったためすぐになれた。（1人）
- ・ 最初は友達になろうと努力しすぎて、うちの子どもがおかしくなったが、その後途中から自分が一步さがって接するようになり、心の葛藤から開放された。（1人）
- ・ 年令が離れているので、話がかみあわなかった。（1人）
- ・ 特に問題はなかった。（3人）

ウ. 現在（4月から10月まで）に何かトラブルのようなものがあったか。

- ・ 4月の終わりにホームシックにかかり、リックを背負って歩いて実家に帰っていった。（実家は福岡市で約10km）（1人）
- ・ 実親との教育に対する考え方が最初は違っていた。しかし実親が理解してくれたので、自分の家庭の方式で対応した。（1人）
- ・ 初めは一日中家の中で泣いて、どうしようもなかったが、4～5日過ぎて落ちつき普通に生活できるようになった。（1人）
- ・ 特に問題はなかった。（3人）

エ. 里親から見て留学生が変化したことはなにか。

- ・ 来た頃より明るくなり、少しずつ自分のことを話すようになった。(1人)
- ・ 夏休みの頃から里親である母親に「お母さん」と言うようになって、甘えるようになった。(1人)
- ・ 最初はがまんしていたようであるが、ひと月もしないうちに「自分の家でも何もしていないのに、しかもお金を払っているのに、なんで仕事をしなければならないのか」と言ったり、「めんどくさい」が口ぐせのように言っていた。このような状態が1ヶ月くらい続いたが、今はよくなった。(1人)
- ・ 夏休みに実家に帰ったからか、2学期になってホームシックがひどくなり、びっくりした。これは自分の意志で山村留学を希望していないからであろう。(1人)
- ・ 自分から進んで遊ぶようになった。(2人)

オ. 里親を引き受けることによって得たものは何か。

- ・ 自分の子供が増え、親戚ができたように思える。夏休み、冬休みに自分の子供が、留学生の家に遊びに行けるのがうれしい。(1人)
- ・ 家族のつきあいができる。(2人)
- ・ 親も子供も、何事に対しても大目にみられるようになった。自分の子供も少し大人になったような感じがする。(1人)
- ・ 何により自分の子供が成長した。他人の子供を預かることで、子供に対する考え方がずいぶん変わった。例えば叱る前になぜそのようなことをしたか、理由を聞くことなどなかった。今までは頭ごなしに叱っていたように思う。(1人)
- ・ 他人を思いやる心が育ち、気安く他の人に接することができるようになった。(1人)

〈考察〉

全くの他人である子ども（留学生）を家に入れ、1年間面倒を見るとい

う里親の苦労は大変なことであろうが、反面、里親を引き受けることによって得られるものも多くあることが理解できる。一方「里親から見て留学生に変化した面はあるか」という質問に対して「お金を払っているのに、仕事をしなければならないのか」ということを言った留学生の言葉に大きな驚きと衝撃を受けた里親がいた。6年生とはいえ小学生がこのようなことを言ったことを知り、拝金主義、物質主義、自己中心主義が、この子ども達まで浸透していることを目の当たりにした気がする。

また留学生がホームシックにかかってしまうという問題が述べられていたが、実親の強い希望により、本人に十分な納得がないまま留学に出しているところに大きな問題があると言わざるを得ない。山村留学は実親、学校、里親の密接な共通理解の上に成立するものであるが、それ以前に実際に留学する子どもの理解と意志の確認が前提になる。親が子どものためにと思っても、実際は逆方向に考えられることがある。

しかし、ここですばらしい効果として多くの里親が上げていた「実子の成長」がある。今までの家庭における自分の位置が変化するのである。ある子は末っ子であったが留学生が来ることによって、お兄さん、お姉さんになることがあり（その逆もある）位置関係が変わることで、実子の新たな成長を感じるという素晴らしい面が出ていることを評価したい。

## 5. 在校生の意見

今年の留学生は男子5人、女子1人の計6人である。内訳は4年生3人、5年生2人、3年生1人である。留学生が感想文を残すように、在校生に対しても感想文を書くことができないかと思ったが、作文を書くことには児童の賛成が得られず、生活を共にする中からの聞きとりになった。

9月中旬から下旬にかけて北山東部小学校で約2週間程、児童と生活を共にし、学習時間、学校行事、給食、清掃など多くの教育活動に参加することができた。北山東部小学校の児童は非常に感受性が豊かであるがそれを文章に表わすことには、非常に抵抗を示す。言葉による表現も不得手である。小

人数でしかも幼少の頃から同一経験をしているため、多くの言葉を必要としないのではないかと思える程である。教職員も子ども達の短い言葉と行動ですべてを察知している。はじめは何を聞いても「知らない」「わからない」を繰り返していた子ども達も、学校生活の多くの場面で共に行動していると、少しずつ胸の内を打ちあけるようになった。

教職員も言っていたように、児童は毎年新しい留学生を迎えることに慣れる。ある時、留学生が来ることに関してどう思うかという質問を発すると、「毎年くるから特にない」や「留学生とは仲良くしていきたい。」など少し言葉を発するようになった。一年間共に過ごした留学生を送り出していくことについて「寂しいけど、夏休や、運動会の時にまた遊びに来るからそれでいい」などとも言ってくれるようになってきた。

在校生の中でも里親宅として留学生を預かっている家庭の子どもは留学生と過ごす時間がより多い。その過程で多くのトラブルがあり、子ども同士の相性もあるはずである。しかし彼等はその悩みを打ち明けようとせず、我慢して、内に抱えこむ傾向がある。その一端をある子は次のようにうちあげた。「今度来た留学生はあまり好きじゃない。学校では休み時間も外に出てみんなと遊ばないし、家でも本を読んだり、部屋から出てこないことも多くあった」と言うのである。「今は前よりもかなり良くなったけど……」というその子の言葉を聞きながら、我々大人には計り知ることのできない子どもなりの思いを抱いているのだということを感じた。それでもその子は、「留学生を迎えて、共に過ごすことは楽しい」とも言った。また別の留学生（5年生男子）を預かっている家の2年生の女児は「たくさん意地悪をされるけど、遊んでくれる時の方が多い」と楽しそうに話していた。また6年生の在校生から「留学生は虫のことを何も知らない。ヘビがかえるのをのみ込むのを見てとても驚いていた」など具体的な日常の行動場面のことを聞くこともできた。

ひとり一人についての会話は短いながらもかなり本音の部分が聞けるようになった。北山東部小学校の子ども達は毎年新しい留学生を迎えることで、様々なことを感じ、悩み、学びながら成長している。

ある教師が言っていたように在校生達は土地柄から別世界の人を受け入れるのに大きな抵抗を持っている。今までに自分が接したことのない新しいタイプの子どもの行動を見たり，考えに触れたりすると，その考え方を集団で排除しようとする。しかし山村留学を実施することで，そのような姿勢が徐々に変化してきたことは，教師のみでなく，「やまばと実行委員会」の方々の話しからも知ることができた。そして心から受け入れるようになると協調の心を大切にしながら，共に刺激しあい，成長していくと言える。

このように山村留学においては，留学生の成長は当然として，受け入れる在校生の成長にも大きな影響を及ぼしていることを強調したい。その成長は，すぐ目に見えて現われると言うより，むしろ，これから先，生きていく上で彼らを形づくっていく基盤として備わるものであると思えた。

## 6. 佐賀県における山村留学制度の特色と今後の課題

佐賀県における山村留学の実施校は北山東部小学校一校であるが，この学校の特色として次のようなことが言える。

- ① 「やまばと山村留学実行委員会」の組織が強固で，地域と保護者が一体となって取り組んでいるため，保護者，教職員は「やまばと実行委員会」を非常に信頼している。
- ② 里親の家庭が三世代であり，留守家庭が全くなく，三世代の生活の中で子供達は，日常の基本的な生活習慣がきちんと身につき，人間関係のあり方を幼少の頃から体得している。
- ③ 学校での児童のトラブルを学校のみで解決しようとせず，「やまばと実行委員会」と協議し，学校と一体となって解決しようとしている。
- ④ 学校における教師の取り組みを地域，保護者の方々が非常に信頼している。

このように佐賀県で唯一の山村留学実施校である北山東部小学校の成果が見られるにもかかわらず，佐賀県内に山村留学制度が普及しないのは，何故かを佐賀県教育委員会に問うてみると，次のような問題点が指摘された。

- ① 町村の財政負担が大きく、財政援助が十分にできない。
- ② 教育委員会や学校が声をかけても、地域の盛り上がりが見られない。  
特に里親の確保がむづかしい。
- ③ 学校内の統一見解が見られない。
- ④ 山村留学制度の良さは認めるが、継続して留学生の確保ができるかどうか自信がない。などである。

## おわりに

この調査研究を続けている間においても、全国で青少年の犯罪が続発し、学校のあり方がきびしく問われている。一方子供達の日常生活は間接体験の連続で、特に都市部においては、多くの体験が電子機器を中心とする疑似体験でうめつくされている。

子供達は自然のきびしさ、すごさ、さらに人と人とのかかわりのむづかしさ、人を認め許すことの大切さなど直接体験（集団体験や自然体験など）でないとできない経験が非常に少なくなっている。この傾向は少子化、核家族化、高度情報化の現実を考えるとさらに増加すると思われる。

このような問題を解決するには、何としても直接体験の場を学校教育の中に導入することが緊要である。そのためにまず1年間を単位とする山村留学とまではいかななくても、夏季休業中における短期留学の形態を考え、実行に移すときにきている。

中央教育審議会は、平成8年6月に「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」<sup>(q75)</sup>の中で次のように提言している。

「子供たちに〔生きる力〕をはぐくむためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要である。子供たちは、具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころとして、感動したり、驚いたり、しながら、なぜ、どうしてと考えを深める中で、実際の生活や社会、自然のあり方を学んでいく。そして、そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組むことを通じ

## 山村留学に関する調査・研究Ⅱ（牛島）

て、自らを高め、よりよい生活を創り出していくことができるのである（中略）。今日子供達は、直接体験が不足しているのが現状であり、子供たちに生活体験や自然体験などの体験活動の機会を豊かにすることは極めて重要な課題と言わなければならない」

この提言は時期を得たものと言える。平成14年度はこの提言の実施初年度である。

子供達に異年令集団のかかわりを体験させることによって、人間関係の機微、むつかしさ、大切さを体得させることや、自然のきびしさ、自然界における生物のいとなみを体得させることは、急務の課題と言える。この短期留学の体験から長期の山村留学へと発展すれば、さらに充実したものになるであろう。

今回の山村留学の調査研究を続けているうちに、北山東部小学校の児童の親が次のようなことを言った。「自然は私達人間が教えることのできない大切なこと、すばらしいことを子供達に教えてくださいヨ」と言うのである。

私達はこのことを忘れてはならない。今の教育界、子育てにおいて忘れてはならないことである。社会と自然が人を作ると言われている。人の力でどうすることもできない大自然のからみの中から生まれる営み、即ち自然のすごさを子供達に体験させることは、今求められている大切な教育課題と言える。今回の調査・研究を進めるにあたって貴重な資料と意見を提供いただいた北山東部小学校の関係の方々から心からお礼申し上げたい。

### 注

- 注1 山村留学ガイド 自由国民社 P13
- 注2 北山東部小学校平成12年度学校要覧 P6
- 注3 北山東部小学校平成12年度学校要覧 P7
- 注4 北山東部小学校平成12年度学校要覧 P8
- 注5 21世紀を展望した我が国の教育のあり方について  
(中央教育審議会 審議のまとめ P10)

〈資料〉

1. 児童生徒調査

(平成11年度)

学校名	在籍人数 [留学生の人数を下の( )に御記入願います]						滞在方法 [下記の方法で お答え下さい]	開始年度
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
電話番号								
校長名	名 ( )	名 ( )	名 ( )	名 ( )	名 ( )	名 ( )		

\*滞在方法名

- ①里親方式
- ②センター方式 (寮方式を含む)
- ③里親とセンターの併用
- ④家族転居
- ⑤その他

2. あなたの学校が山村留学を導入したのはなぜですか

- ア. 複式学級の解消のため
- イ. 都会の子どもたちに山村の体験をしてもらいたいから
- ウ. 地域の活性化
- エ. 地元の子どもたちに都会の子どもたちとの交流をさせたかったから
- オ. その他 ( )

3. 保護者・地域の取り組み方

- ア. 積極的である
- イ. やや積極的である
- ウ. やや消極的である
- エ. 消極的である

4. 実施上の問題点

- ア. 留学児童の受け入れ先
- イ. 村・町からの補助金の制限
- ウ. 留学希望者の減少
- エ. 留学児童の問題行動
- オ. 保護者・地域の受け入れに関する考え方の違い
- カ. その他 ( )



山村留学に関する調査・研究Ⅱ（牛島）

5. 山村留学によって得られた効果

- ア. 複式学級が解消できる
- イ. 活力ある地域づくりができた
- ウ. 地元の児童の活性化ができる
- エ. 留学生に多くの自然体験をさせることができる
- オ. その他 (                                 )

6. 今後の見通し

- ア. ぜひ続けたい
- イ. 続けたいが問題点もある
- ウ. 中止したい
- エ. まだわからない
- オ. その他 (                                 )

◆アンケート用紙◆（里親に対して）

●里親様のお名前をご記入ください。

(   )

●里親を引き受けるのは何回目ですか？ (             度目)

●引き受けるにあたって、不安なことや心配なことはありましたか？  
ありましたらご記入ください。

●留学生の最初の様子はどうでしたか？

●お子様の様子はどうでしたか？

●今までに、何かトラブルのようなものはありましたか？  
ありましたらご記入ください。

●里親さんから見て、留学生に変化した面はありますか？

あるとしたら、どのようなことですか？

●留学生に対して、気を配っていることはありますか？

●山村留学という制度、また、里親を引き受けることによって得たものは何ですか？

●また、北山東部小学校が山村留学を続けていくにあたって、乗り越えるべき問題点がありましたらご記入ください。

### ◆アンケート用紙◆（実親に対して）

1. 山村留学を知ったきっかけは何ですか。

ア. 新聞

エ. 知人の紹介

イ. 雑誌

オ. 看板

ウ. インターネット

カ. その他（

）

2. なぜ子どもを山村留学させようと思いましたか。

ア. この時期にゆったりとした自然体験をさせたい。

イ. 自然の中で生活することによって、心や体を強くしたい。

ウ. 一人っ子だから友達と生活する経験を。

エ. 本人が自然が好きだから。

オ. ふるさとを作ってやりたい。

カ. どうしても最近のわが子の様子－友人関係や行動－が心配だ、環境を変えたい。

キ. 今の学級担任と合わないから。

ク. 勉強一辺倒である都会の学校に疑問を感じて。

ケ. その他

〔

〕

山村留学に関する調査・研究Ⅱ（牛島）

3. 山村留学させる前と実際に山村留学の出してからの心配な点を教えてください。

・山村留学させる前	〔  〕
・山村留学に出してから	

4. 4月からこれまで子どもさんに何か変化が見られたら教えてください。

〔  
  
〕

5. 学校に対して望むことを教えてください。

〔  
  
〕

6. 地域の方に対して望むことを教えてください。

〔  
  
〕

7. 里親の方に対して望むことを教えてください。

〔  
  
〕

8. 行政に対して望むことを教えてください。

〔  
  
〕